



学校だより 冬休み前号

令和5年12月22日

杉並区立済美養護学校

校長 伴 比佐志

<http://www.suginami-school.ed.jp/seibiyougo/>

「つながることの大切さ」

校長 伴 比佐志

令和5年の学校だよりは、最終号となりました。振り返れば、2学期は、記録的な猛暑続きの夏を過ぎ、この時期にはめずらしい暖かさを感じる冬になり、大きく季節変わりをしました。

小学部学習発表会・中学部授業参観への御来校、そして、ふれあいアートギャラリーの参観をいただきまして、ありがとうございました。児童・生徒は、これまでの2学期の成果を、多くの参観者の前で、存分に発揮できていたと考えます。この号の発行とともに、あゆみをお配りしています。この2学期のお子様の頑張りを、ぜひ御家庭で、十分にほめてあげてください。

私が、学習発表会の当日のスクールバス下校便の誘導をしていた時のことです。

隣の済美小学校の校庭では、学童クラブや放課後居場所事業主催の「子どもまつり」が実施されていました。そこに参加していた、済美小学校4年生の児童2人が、スクールバスを誘導している私に、大きな声で声をかけてきました。最終のバスを送り出し、待っていた児童に挨拶すると、「校長先生、学習発表会を見学できてうれしかったです。発表が楽しかったです。」と伝えてくれました。私は、児童の笑顔と言葉に感激し、「すてきな感想をありがとう！とてもうれしいです！」と笑顔で返すと、「来年もまた、見に来たいです！」とさらに返してくれました。

済美小学校は、今年度で創立70周年を迎えて、本校より長い歴史の中で、地域に根差してきた学校です。そして、本校と同じ“済美”の名を冠しており地域交流校であるため、毎年4年生の児童同士の交流を行っています。12月6日（水）の小学部学習発表会の予行の時には、済美小学校の4年生とかしのみ学級の児童を招待したので、高学年の舞台発表を参観していました。

杉並区教育ビジョンでは、多様性を認め合うインクルーシブ社会の構築を目標の一つとして掲げています。コロナ禍を過ぎ、直接の交流が進む中で、自他を認めることにつながる、まずはお互いを知り合うことの大切さを、あらためて考えました。

来年は、3か年計画である、杉並区特別支援教育推進計画のまとめの年になります。そして、次の特別支援教育推進計画の策定に向けての準備が始まります。本校は、今後に向けて、済美小学校との関係をさらに太く長くすること、副籍交流の地域指定校との関係をもっともっと太くすることをめざし、本校の特別支援教育のセンター的機能の充実につなげ、インクルーシブ社会の構築を推進してまいります。

結びになりますが、保護者の皆様や関係諸機関の皆様に御理解と御協力をいただき、令和5年の無事最終登校日を迎えました。厚く御礼を申し上げます。皆様、よいお年をお迎えください。

「問う」

副校長 坪池 学

昨年末に「変わりゆく済美」を掲げました。年度当初には「物語の始まり」と題しました。令和5年の本校の歩みは、皆様にはどのように映りましたか？僅かばかりでも御期待に応えられていますか？

子供たちを眺めれば、日々の変化は小さくても、積み重ねた変容を繋げると、そこには確かに成長の軌跡が見られたのではないのでしょうか。では、特別支援教育の振興としてはどうでしょうか？学び高めあう教職員集団としては？…振り返るべき観点は多岐にわたります。

本校では校内の各分掌での振り返りを始めました。新年1月に区教育委員会から提示されます「令和5年度教育調査」の結果と合わせ、考察と改善に努めます。令和6年、皆様と共に歩む本校がやさしさとしあわせに満ちた未来であることを信じて、お子さんの未来と成長に責任をもつ教育課程を編成してまいります。

この1年間、温かな御助力・御助言を賜りましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。